

災害時相互応援協定締結団体福島被災地視察

千葉県環境計量協会
副会長 平山 千恵子

【日時】 2022 年 11 月 18 日（金）10：00～11 月 19 日（土）10：00

【場所】 福島県双葉郡浪江町及び双葉町

【主催者】災害時相互応援協定締結団体（幹事（一社）福島県環境測定・放射能計測協会）

【視察の目的】

災害時に環境汚染濃度を速やかに測定するために、被災地以外の事業所が協力して測定にあたる必要がある。

今回福島県を訪問し被災地の現状を知り、福島県単をはじめとする災害時相互応援協定締結団体及び首都圏環境連絡会の理事と意思疎通を図る。

【参加者】首都圏環境連絡会（千環協 会長：津上・副会長：野口、平山）

福島県環境測定・放射能計測協会、愛知県環境測定分析協会、
大阪環境測定分析事業者協会、福岡県環境計量証明事業協会、東海テクノ社
計 34 名

【視察内容】

1. 東日本大震災・原子力災害伝承館

東日本大震災及び福島原子力発電所の事故について、時系列に展示及び映像にて説明されている。震災の記録と記憶を教訓として、防災・減災に役立てることが目的の施設である。

- ① 震災発生前の人々の暮らし
- ② 震災発生時、津波
- ③ 原発事故直後の対応（錯綜する情報・避難の様子）
- ④ 県民の思い 原子力災害特有の事象を中心に風評被害や長期的な避難
- ⑤ 長期化する原子力災害の影響 除染や風評被害
- ⑥ 復興への挑戦 廃炉作業の進捗、福島イノベーション・コースト構想

2. フィールドワーク

伝承館の担当者がバスに同乗し、浪江町の大平山霊園にて、請戸小学校の児童達の避難の様子等の説明を受けた。

その他、双葉町（双葉町駅前商店街・双葉駅）・放射性廃棄物の中間貯蔵施設を回った。

3. 意見交換会

各県単の理事による意見交換会を実施した。なお、災害時相互応援協定締結団体関係者より、当該協定への締結に関して加入提案を受けたため、まだ締結していない東京都環境計量協議会と連携して協議することとした。

4. 感想

(津上)

今回福島県単のご尽力により、大変有意義な被災地の視察研修に参加することが出来ました。東北各地は11年前の巨大地震から確実に復興が進みつつあるようですが、福島県の一部は原発事故というより困難な事象により、ようやく立ち入り制限が解除されるなど、まだまだ復興はこれからということを改めて実感しました。また、今後は他県単とも情報交換を活発にして、いざという時の協力体制を予め構築しておくことの重要性を認識しました。

(野口)

添乗員による浪江町請戸小学校の避難方法の話が印象的でした。

- ① 直前に避難訓練を実施していたこと、
- ② 地震発生直後、津波を想定して避難を開始したこと、
- ③ 道路が大渋滞であったため、臨機応変に田んぼの畦道を避難経路としたことにより、わずか10分程度の差で全員が津波の被害を回避できたという内容でした。災害に対する準備と想定外の出来事に対する的確な判断が生死を分けたと言えます。事前準備が重要であることは十分理解していますが、災害時には想定外の問題が生じます。頭が固くなっている私ですが、もう少し想像力を膨らませて、想定外の低減に臨みたいと思った次第です。

(平山)

今回、福島県環境測定・放射能計測協会の方々にも直にお話を伺う事も出来て、大変有意義な視察となりました。

印象に残ったことを3つ挙げると、

- ① 大平山霊園から見た一面整地されている土地
かつてはそこに人々の暮らしがあったのですが、避難困難区域のため今後も人々が住む事は出来ないとのことでした。
- ② 新しい建物が多い事
復興の様子を感じることが出来てとてもうれしい反面、震災からまだあまり年月が経っていないのだという事を強く感じました。
- ③ 福島の産業について
いまだに東日本大震災と原子力災害が発生した福島の農産物等は他の地域の価格と比べて2割程度安いとのことでした。

東日本大震災で甚大な被害を受けた地域に対する私達からの支援の在り方、大地震発生時の避難経路を今一度考えなおす大切さを強く感じ、災害時に環境分析の支援に積極的にお手伝いさせていただきたいと思いました。

※「ふるさと請戸 郷愁編」をもとに作成

タイムテーブル

11月18日(金)

10:00 福島駅西口バスプール出発(参加者34名)

11:00 車中にてスケジュール確認概要説明・説明資料配布

12:00 浪江町 道の駅なみえ到着 昼食

13:00 道の駅なみえ 出発

13:30 東日本大震災・原子力災害伝承館 到着

◆伝承館内見学(60分)・展示、ビデオ、語り部 他

◆フィールドワーク(60分)・周辺被災地をバスで周遊・各地の現状見学

◆伝承館内見学

大地震、津波被害、原子力災害について展示やビデオで学びます。

語り部のブースでは体験者のお話も聞けます。

◆フィールドワーク

バスに伝承館の担当者が同行して説明をしながら、浪江町と双葉町周辺の被災地を回ります。

請戸を見下ろせる大平山、請戸小学校、双葉駅前商店街、中間貯蔵施設 他

16:00 伝承館 出発

18:30 土湯温泉 水織音の宿 山水荘 到着

19:00 - 21:00 意見交換会

一般社団法人福島県環境測定放射能計測協会 会長挨拶

協定締結各団体からの感想、今後の課題等意見発表

次年度担当団体決定 担当団体挨拶 等

11月19日(土)

10:00 福島駅西口到着

コラッセふくしま物産館で被災地支援として果物、地酒、お土産購入

